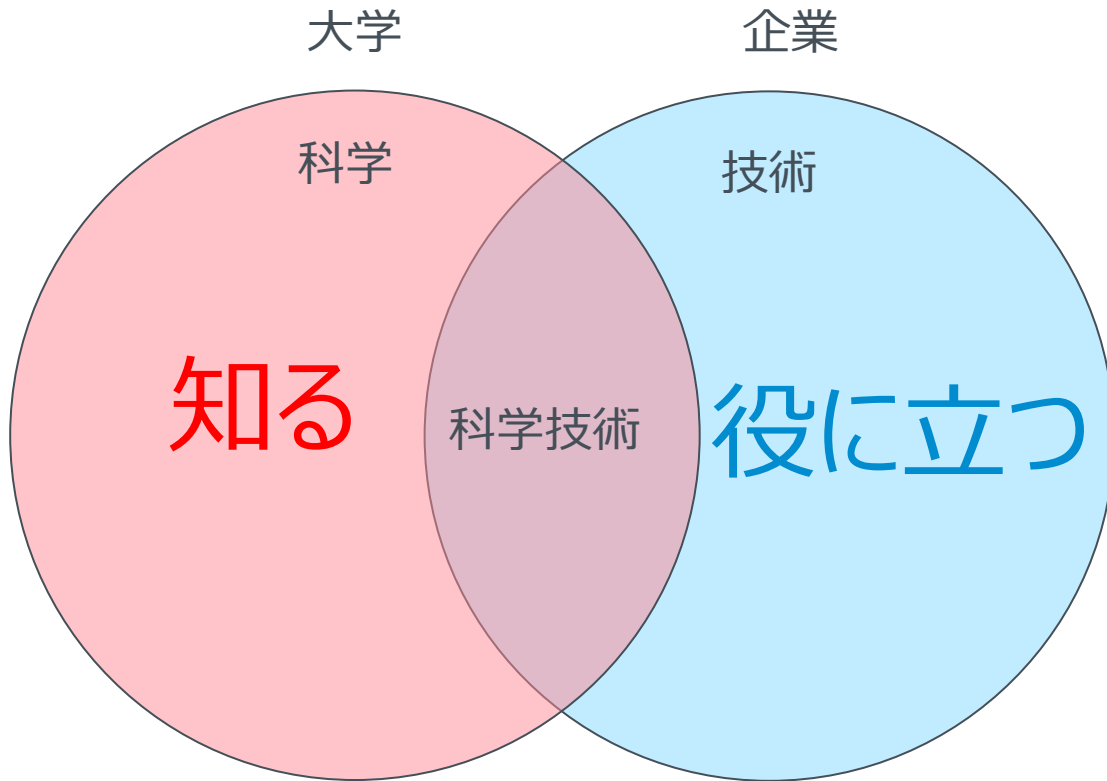


ロームR&Dにおける人材育成取組について

2025年9月5日
研究開発センター
センター長・フェロー
中原 健



大学と企業の視点の違い←いい悪いを言っているのではないです



信頼性・品質保証

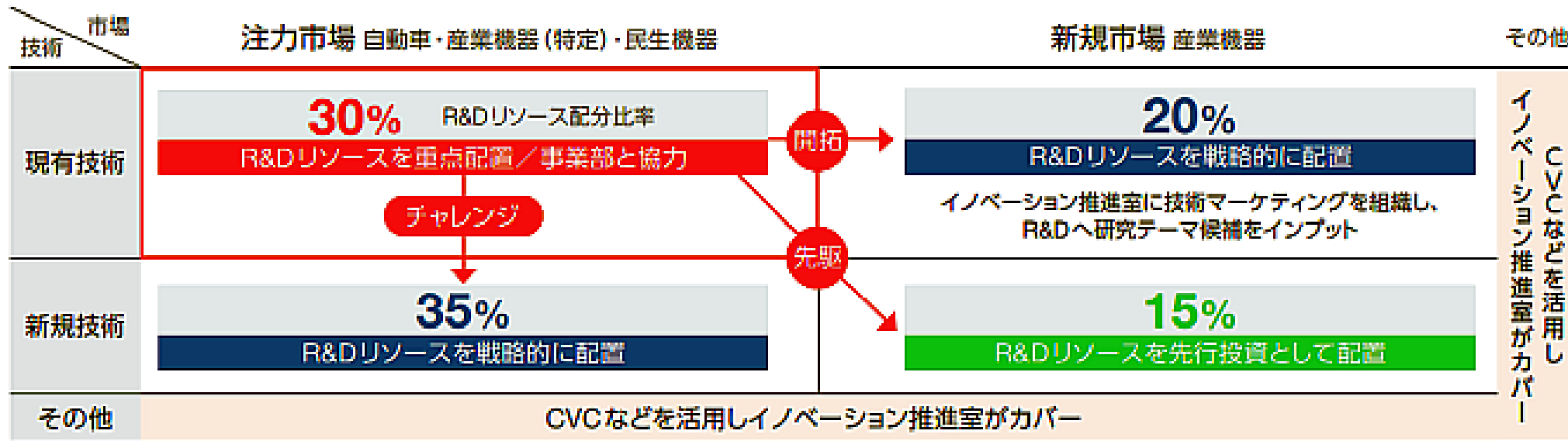
→信用(この世で最も大事なもの)の醸成

- (1)「技術的に深い」「先端技術に通じている」が直接商売に繋がるわけではない
→多様な人財を揃える事
- (2)技術の世界はNewer is better
→知の巨人である大学との共同研究を欠かさない

(1)：数学科出身者、URA(Univ. Research Administrator)出身者、元営業マンをメンバーに→多様な考えに触れること

(1)：商売につなげるためにはマーケティングが必要

[統合報告書 研究開発における取り組み](#)



(2)：博士号取得の推奨→知識の「体系化」が博士号最大の価値。これは顧客との技術的対話にも役立つし、マーケティングでも役に立つ。19年以來5人が取得

(2)：企業ニーズを発信し、大学側にも「気づき」を持ってもらいつつ、共同研究(人文含む)



[研究公募](#)



[統合報告書 研究開発における取り組み](#)

研究公募制度

ロームは、未来に向けた研究開発を効果的に進める手法としてのオープンイノベーションに、積極的に取り組んでいます。その一例が、研究公募制度です。

学術研究に助成金を支援するのではなく、産学協働により成果を求める共同研究の入門編と位置付け、一定のリソースを確保することで継続的に実施しています。自社だけでは持ち得ない解決手法やアイデアの提案を公募し、協働により成果が見込める提案について、最長3年の共同研究テーマとして採択することで、未来の研究開発を芽吹かせる取り組みです。更なる

進展が期待される場合には、規模や期間を拡大した本格的な共同開発へ移行し、その成果を実現します。



※たぶん、共同研究を経験したことのない技術者は、新卒者を除いて、ロームR&Dにはいないと思います。



Electronics for the Future